

令和6年度中国地区私立幼稚園教育研修会岡山大会分科会報告

第 3 分科会			研修俯瞰図番号 B 3
テーマ	幼児教育における音楽が育む非認知能力		
講師	日畑 由佳先生 (0歳からのリトミック&モンテッソーリ教育『オトノハ』主宰、 NPO 法人リトミック研究センター岡山第一支局指導者養成スタッフ)	会場	ホテルグランヴィア岡山 3F クリスタル
ねらい	現場ですぐに使える音楽指導 リトミック活動を通して自分で考え、自由に自己表現できる子ども達を育むための指導法を知る（ピアノが苦手な先生も大丈夫です！）		
日程	8:45 受付開始 9:00 開始挨拶 講師紹介 9:05～ 講演開始 I 非認知能力について II 子どもについて III 音楽指導について リトミック・ムーブメント IV 大人の役割について 10:45～ V 実践（グループワーク） 11:45～ 講師より挨拶・謝辞・次回開催県の先生より挨拶		

《内容》

I 非認知能力について



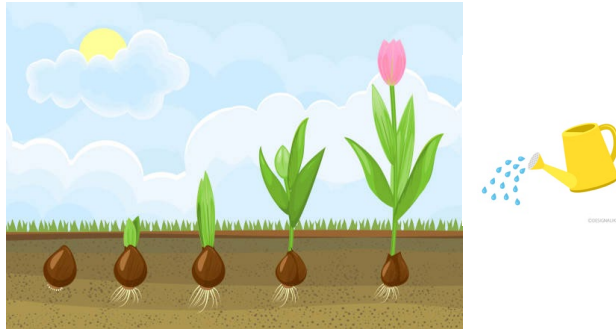
◎まず初めに、日畑先生ご自身は日頃から「子どもをどのように捉えて、どのように指導していくと子どもも大人も平和になるのか？」を考えながら、様々な方面からアプローチをしていくことが大切ではないか？」と考えながら音楽指導に携わっている。ということを念頭に置く。

☆認知能力と非認知能力はバランス良く育っていく必要がある。

- 『非認知能力』・・・・・・①目標を達成する力（挑戦力）
（社会情緒的スキル） ②他者と協力する力（社会性）
③自分の心（感情）をコントロールする力（自制心）

この3つのスキルを備えることができるような関わり方を意識していくことが大切。

Ⅱ 子どもについて



子どもは『自ら育つ』球根のようなもの。
保育者は子どもが自ら育つことができるように、与える適切な内容や量を考えていかなくてはならない。子どもにとって豊かな土壌とすることができる環境作りを考えていくことが大切である。

○年齢や発達段階によって、子どもが育っていくための「エネルギーを溜める時期」や「溜めていたエネルギーを精査する時期」等が繰り返される。

Ⅲ 音楽指導について

- a. 音楽指導…合奏、合唱というのが主なもの。(速度や強弱などを知らせていく)
- b. リトミック…身体的、感覚的、知的に必要な力をつけるための潜在的な基礎能力を促す活動。
- c. ムーブメント…ボディコントロールするためのエクササイズ。(最近話題の指導法)

音楽指導にはどのような方法があるのかを知り、子どもにとって今、必要と思われる内容を取り入れていく。

Ⅳ 大人の役割について

上記Ⅰ～Ⅲの講演内容を踏まえた上で、大人は『子どもをしっかりと観察する』『ルールは簡潔に伝える』ことを意識しながら、子どもたちと接していくことが望ましい。

Ⅴ 実践 (ムーブメント)



ムーブメント①…ボディコントロールのためのエクササイズ

「歩く」→ベルが鳴ったら止まる（身体を止める）

「歩く」→ベルが鳴ったら、ベルの方を見て止まる

「歩く」→リーダーが動きを止めたら、止まる

「歩く」→リーダーが止まったら、部屋のどこかを触って止まる。



ムーブメント②…身体への意識を高めるためのエクササイズ

- ・目を閉じて教師の言う体の部位を触る。
- ・目を閉じて教師の言う体の部位を「右手」で触る。
(正中線を横切るような指示を意識すると、身体の平衡感覚を養うことができる)
- ・身体の部位を壁に案内する。
- ・ミラーエクササイズ (向かい合った人の動きを瞬時に真似る。)



グループワーク

各園で、どのような音楽指導やリトミックを取り入れているかをグループで話し合う。

《まとめ》

音楽指導には、その時々目的に応じて様々な方法があり、目の前にいる子どもたちに何が必要かを観察し、見極めながら子どもたちの心と身体が豊かに育っていくための手助けを考えていくことが大切である。そのためには、子どもたちの発達段階を理解し、その時に適した指導内容を考えていくことも必要である。『聴くこと』『見ること』『考えること』『感じること』『感じたことを表現できること』これらの5つのポイントが育まれているかを振り返りながら、今後も楽しく音楽活動に取り組んでいきたい。

《担当園／記録者氏名》 倉敷マリア・インマクラダ幼稚園 和田 真美